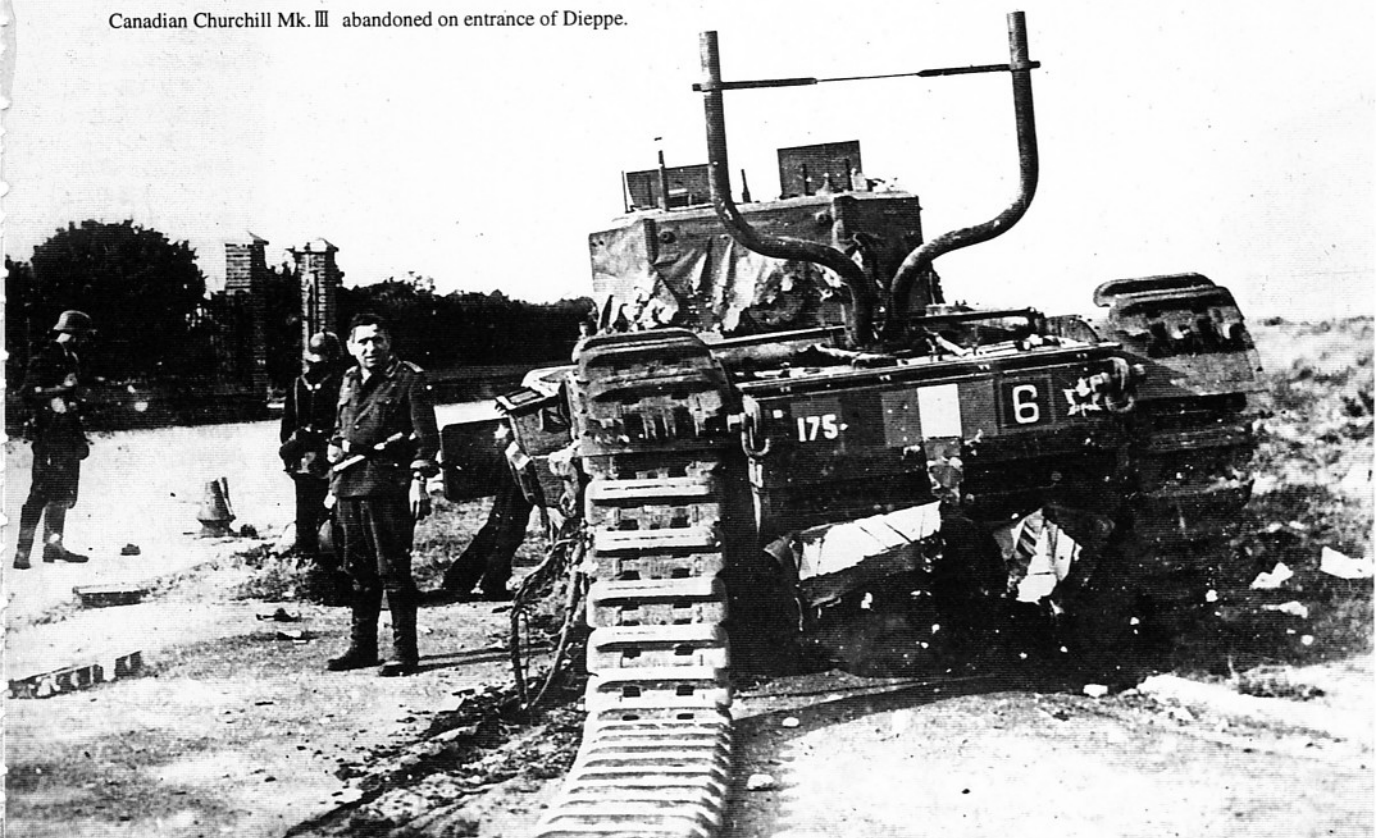




フォト・ドキュメント ディエップ上陸作戦

解説一斉木伸生

1942年8月19日、イギリス、カナダ、アメリカ軍部隊は、フランス、ディエップの海岸に奇襲上陸作戦を敢行した。この作戦はヨーロッパ大陸に第二戦線を将来構築するための、上陸作戦の各種装備の開発実験と将兵の実戦経験を積むことであった。また副次的任務としてディエップのドイツ軍フレイヤ・レーダー装置を奪取することも目的とされていた。写真は海岸は突破したものの、町の入り口で履帯を切って放棄された車体で、後部にカルガリー連隊のナンバーである175とカナダ軍のインシグニアがはっきり見てとれる。

LANDING OPERATION ONTO DIEPPE

直撃弾を受けて破壊されたものであろうか、激しく煙を吹き上げている戦車揚陸艇。戦車が降りて空っぽになった船倉内は弾薬箱(?)等が乱暴に散らかり荒れ果てている。向こうの船橋上には機関銃シールドが見える。上陸作戦に協力したイギリス海軍は、この作戦で上陸用舟艇33隻、駆逐艦1隻を失い、75名が戦死、269名が行方不明となった。

Tank landing craft of Royal Navy burning by German gun fire.





Churchill Mk. III tank of Canadian 14th Tk.Rgt. abandoned by amputate of track.

上陸部隊はカナダ軍5000名が中心となり、イギリス軍コマンド部隊1000名、アメリカ軍レンジャー部隊50名が参加していた。支援のため第14カナダ陸軍戦車連隊（カルガリー戦車連隊）のチャーチルMk. III、IV歩兵戦車29輛が投入された。各車体には「ブロッサム」「ブレンダ」「ベティ」「ビートル」などのニックネームがつけられていた。ちょっと判然としないが、側面排気口カバーに「ブロッサム」の名前が見える。

同一車体を別角度から見る。切断された左側履帯が後方に長く伸びている。ディエップに上陸したチャーチル戦車はドイツ軍に破壊されたのではなく、ほとんどは履帯の切断や機械故障などで放棄された。「パート」のニックネームが見える。四角い枠に囲まれた車体ナンバーはB中隊所属車輛を示す。興味深げに様子をうかがうドイツ兵士達の様子がおもしろい。

Canadian Churchill Mk. III tank of B Co., 14th Tk.Rgt. receiving examine of German soldiers.





作戦に参加したチャーチル戦車29輛（異説あり）のうち2輛は水没し、27輛が上陸に成功した。しかし小石まじりの海岸で4輛が履帯を切断して立ち往生し、15輛が海岸を突破したもののコンクリート・バリケードによって町への侵入を妨げられた。8輛が町に侵入することに成功したが、結局総て放棄された。写真はディエップ前面の海岸で放棄されたチャーチルMk. III。

Churchill Mk. III tank destroyed by German counter attack.

ディエップ奇襲は無意味ではなかったが、被った損害も大きかった。上陸したカナダ軍部隊約5000名のうち、907名が戦死し1840名が捕虜となった。イギリスに帰還できたのは上陸したうちの半分の2210名だけだった。これに対してイギリス、アメリカ軍部隊の損害は軽微だった。写真は負傷してドイツ軍の野戦病院で手当を受けている将兵で、表情からは戦いに敗れたものの沈み込んだ様子は見られない。



Wounded of Canadian Army togathered on a German field hospital.



ディエップに上陸したチャーチル戦車は、上陸用に防水装備が施されていたが、延長された排気管がエンジン・ルーム上に見える。といっても渡渉水深が増加しただけで、もちろん水陸両用というわけではなく、水没した車輛が出てしまった。車輛の前に乗員の死体が横たわっており目を覆いたくなる惨状である。ドイツ将校に尋問を受けているのは捕虜となった戦車兵であろうか。

Churchill tank installed an additional exhaust tubes for fording onto the beach.

このチャーチルMk.IVは、情けないことに全く砂浜を通過することができなかったようで、完全に履帯が砂にめり込んでいる。チャーチルは機動力に難点があったが、ディエップではその弱点を露呈してしまった。後方にもう1輛が擱座しており、左には搭載してきた上陸用舟艇も海岸に打ち上げられている。ニックネームはBで始まることはわかるが判然としない。ニックネームがは各中隊符号に頭文字を合わせて決められているようだ。

Churchill Mk.IV tank stuck on the beach, a beached TLC seen in background.





C中隊所属のチャーチルMk.Ⅲ。C中隊ではクーガー、チーター、キャットなどの名前がつけられていた。車体前面に取り付けられた不思議な装置は、砂浜に戦車が行動するための道板を敷くための機具である。上陸第1号車体として海岸に取り付き後続車のために道板を敷き詰める。ボビンだけが残っているところを見ると、カーペット展張の任務には成功したようだ。このような上陸用の特殊装備はその後各種実用化され、ノルマンディー上陸作戦では大いに活用された。

Churchill Mk. III tank devised a bobbin on the front hull.



収容所までの長い道程を歩く捕虜達。ドイツ軍はディエップからアンヴェルモーへと捕虜達を徒步行進させた。彼らにとって戦争は終わったが、解放されるまでは2年半の年月が必要だった。不運にも収容所で命を落とす将兵もあった。彼らの他に、総てのチャーチル戦車、7輛のダイムラー・スカウトカー、1輛のユニバーサル・キャリアー、1輛のジープ、25隻の上陸用舟艇、5隻の戦車揚陸艇が遺棄され、ドイツ軍の手に落ちた。

Prisoners walking towards German starag.



大戦前イギリス、アメリカ軍は適当な上陸用装備を持っていなかったが、日本陸軍の大発などを参考にして各種上陸用舟艇を実用化した。写真は前部にランプを備えた戦車揚陸艇（TL C-5）。海岸に擱座してチャーチル戦車を揚陸したが、その後波で打ち寄せられたらしく、おかしい向きに泊まっている。本来海岸に正対するのが正しい上陸姿勢だ。

Tank landing craft abandoned after Disembark of tanks.